

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果

取手市教育委員会指導課

平成28年4月19日（火）に全国学力・学習状況調査が実施されました。その結果をもとに、取手市内の児童生徒の傾向を掲載します。

この調査は学力の一部をはかるものであり、学力の全てを示すものではありません。



- 調査対象……小学校6年生，中学校3年生
- 調査内容……1 教科に関する調査（国語，算数・数学）
2 生活習慣や学習環境に関する調査

「A問題」……主として「知識」に関する問題（身に付けておくべき基礎的な知識や技能）

「B問題」……主として「活用」に関する問題（知識や技能を実生活で活用する能力）

「児童質問紙」……学習意欲や学習・生活習慣等に関するアンケート形式の調査

1 教科に関する調査の結果について

小学校国語

成果がみられるところ

- 目的に応じて、図と表とを関係付けて読むこと
- 学習した漢字を正しく読むこと
- 書写の毛筆において、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めること
- 調べ学習において、目的に応じて複数の本や文章などを選んで読むこと



課題がみられるところ

- □ーマ字を正しく読んだり書いたりすること
【いぬ → inu りんご → ringo あさつて → asatte hyaku → ひゃく】

- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくこと
- グラフを基に分かったことを的確に書くこと

2

六年一組の高野さんの学級では、健康な生活のために「早ね早起朝ごはん」運動に取り組んでいます。高野さんは、これまでの活動の結果を報告文にまとめ、学級のみんなに伝えることにしました。次は、高野さんが書いている「報告文の一部」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告文の一部】

○ 「早ね早起き」活動のまとめ

1 成果

アンケート調査の結果、これまでの半年間の活動が成果を上げていることが分かりました。

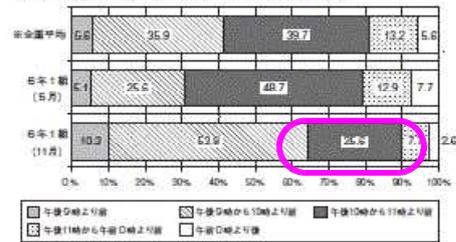
〈図1〉のように、活動を始める前の五月の時点では、「次の日に学校がある日」に夜十時を過ぎても起きている人の割合が全国平均を上回り、早ねができていないとまではいえませんでした。それが半年間の活動後には、夜十時までにねる人の割合が

A

その理由として「成長に大事な睡眠を十分にとる」「夜十時まではねましよう」という保健室のお話みんなの心に残ったのだと考えます。他に「毎日体を動かすように、体育がない日にクラスで外遊びを行う活動や、「健康せんげんカード」に早ね早起きができたらを記録する活動を行ったこともあげられます。

〈図1〉

次の日に学校がある日は、ふだん何時ごろにねますか。



〔全国平均は、文部科学省「平成26年度児童教育の割合別調査に関する調査報告書」を基に、調査を中心とした生活習慣と子供の自立率との関係性に関する調査〕に基づいた。

Aは、活動前の五月と活動後の十一月の「夜十時までにねる人」の割合として正しいものを選択する問題です。

- 「高野さんは、「1 成果」について〈図1〉を用いて書くようになっています。Aの中に入
- 1 五月の結果を下回り、三十パーセント程度になりました
 - 2 五月の結果より減り、四十パーセント以下になりました
 - 3 五月の結果より増え、六十パーセントをこえました
 - 4 五月の結果を上回り、十パーセント程度になりました

3割程度の児童が「夜十時を過ぎても起きている人」の割合に着目した誤答を選択しており、図やグラフを用いて自分の考えが伝わるように書くことに課題がみられます。

中学校国語

成果がみられるところ

- 小学校までに学習した漢字を文脈に即して正しく読むこと
- 電話を受けた相手に応じ、適切な言葉遣いで話すこと
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること
- ちらしを読んで、文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉えること



課題がみられるところ

- 語句の意味を理解し、文脈の中で正しく使うこと
【手塩に(1 まいて 2 ひいて ③ かけて 4 にぎって)育てる。】
(⇒1の「まいて」を選択する誤答が多くみられました。)
- 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと
- 学校図書館を利用し、課題の解決に必要な情報を収集すること
- 文の成分の照応(修飾・被修飾の関係)について正しく理解し、文を構成すること

三割程度の生徒が、「三の」指示する言葉と指示される言葉を「」の誤答を選択しています。これは、指示語がどういうものなのか、文の成分について言葉とはたらしきを結び付けて理解できていないことが考えられます。

五 次は、世界的に有名な「サグラダ・ファミリア」として最も適切なものを、あとの1から4までの中

【A】
「サグラダ・ファミリア」は、一八八二年からスペインで建設されている建築物です。私は、とても日本人が建設に大きく貢献していることを知って驚きました。

【B】
「サグラダ・ファミリア」は、一八八二年からスペインで建設されている建築物です。私は、日本人が建設に大きく貢献していることを知って、とても驚きました。

←

写真

文章【B】です。書き直した意図

文章を書き直した意図として適切なものを選択する問題です。「とても」はそのあとの「驚きました」を強調する修飾語です。



参考〈建設中のサグラダ・ファミリア〉

今後に向けて

- 市内の小中学校では、国語の時間に教科書の関連本を並行読書として準備したり、県の「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」に積極的に取り組んだりするなどして、子供たちの読書量の確保に努めています。今後さらに、地域の図書館との連携をしながら、さまざまなジャンルの本を読んだり目的に応じた資料を集めたりする活動を、授業の中に取り入れるようにしていきます。

- ローマ字の読み書きを習得するためには、授業の時間だけでなく、日常生活においてローマ字に触れるようにすることが大切です。学校では、コンピュータを活用した授業などで、繰り返し読んだり書いたりする機会を作っています。今後も、日常生活の中のローマ字が使われている場面を例に出しながら、ローマ字を書いたり読んだりする必要性を感じるような活動を多く取り入れていきます。
- 図表やグラフを正しく読み取り、必要な情報を活用するのも国語科の指導事項の一つとなっています。学校では、自分の意見や説明に説得力をもたせる根拠の一つとして、効果的に図表やグラフを活用する学習も取り入れています。社会科や算数・数学科などで学習した図表やグラフの読み方を生かし、児童生徒が身に付けた力を活用することで定着を図っていきます。

小学校算数

成果がみられるところ

- 整数, 小数, 分数の四則演算をすること
- 数の大小関係や不等号の意味を理解していること
- 日常生活の問題を理数的に捉え, 図, 表, グラフ, 式などから必要な情報を判断し, 目的に応じてそれらを活用して説明すること

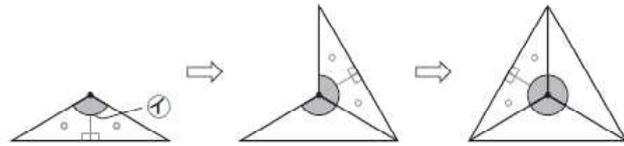
課題がみられるところ

- 示された除法の式を三角定規を並べてできた形と関連付け, 角の大きさを基に, 式の意味の説明を記述すること
- 図形を構成する角の大きさを基に, 示された四角形を並べてできる形を判断すること
- 直方体における面と面の位置関係を理解していること

※B5の問題

正答率が最も低かった問題です。①360は1回転した角の大きさを表している②120が①の角の大きさを表している③360は120の幾つ分かを計算している式である。以上の①②③の全てが書いてあることが正答でした。

①②③のうちの2つもしくは1つは記入できていた回答は5割以上ありましたが、③が書けた回答は少数でした。



どうして3つでぴったりつくることができるのでしょうか。



$360 \div 120 = 3$ で、商が3になり、わり切れるからです。



そうですね。

では、 $360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。説明してみましょう。

$360 \div 120$ は、どのようなことを計算している式ですか。
言葉と数を使って書きましょう。その際、「360」と「120」が何を表しているかがわかるようにして書きましょう。

式と図形との関連を、根拠を基に記述して説明する力が求められています。

中学校数学

成果がみられるところ

- 四角形をその面に垂直な方向に平行に動かすと、四角柱が構成されることを理解していること
- 円すいの体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の $1/3$ であることを理解していること
- 条件を基に表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めること

課題がみられるところ

- 読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求めること

- $x = 4$ のとき, $y = 9$ になるように, x と y の間の関係を書き加えることについて, 正しい記述を選び, その理由を説明すること
- 反比例のグラフ上の点の座標から, x と y の関係を式で表すこと

※A12(1)の問題

(1) ある中学校の3年生120人について, 最近1か月間に読んだ本の冊数を調べました。下の表は, その結果をまとめたものです。読んだ本の冊数の最頻値を求めなさい。

読んだ本の冊数(冊)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
人数(人)	9	16	29	23	15	13	14	0	1	120

資料を整理した表から最頻値(資料の中で最大の値をもつ階級値)を読み取ることができるかどうかをみる問題です。

正答は「3」ですが, 誤答で最も多かったのは「29」でした。これは, 読んだ本の冊数の最頻値を求める問題ですが, 人数の最頻値を求めてしまったと考えられます。

今後に向けて

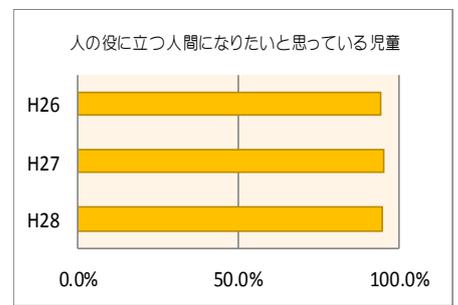
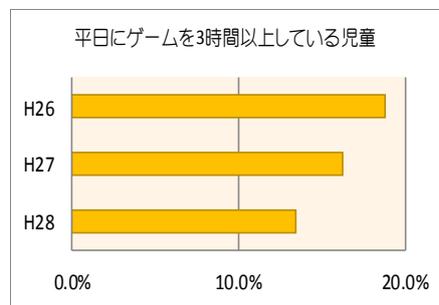
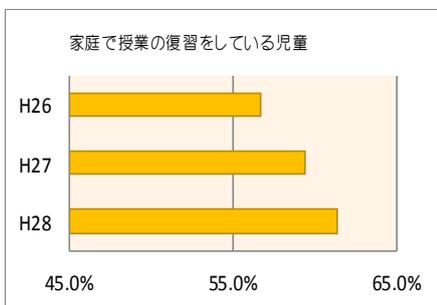
- 授業の中で, 図や式を適切に用いて問題を解決し, 児童が互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を通して, 子供たちの思考力を育てます。
- 資料を整理したり読み取ったりすることが実生活に役に立つということを実感できるように, 身近な問題を取り上げて授業を展開します。また, 目的に応じて資料を収集して整理し, 代表値を用いて資料の傾向を説明する場面を設定します。
- 条件が不足した問題を考察し, この条件にあとどのような条件を加えればよいかを表や数値を基にして説明する活動を通して, 必要な条件を判断し, 説明する力を育てます。

2 児童生徒質問紙調査の結果について



児童質問紙について

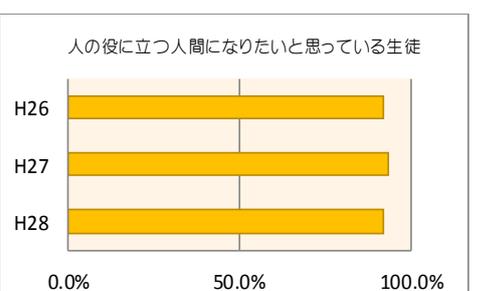
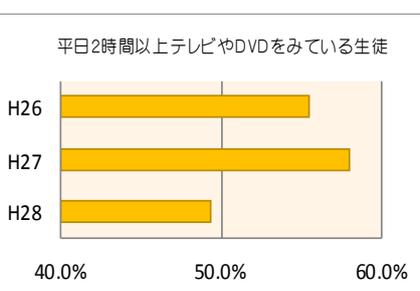
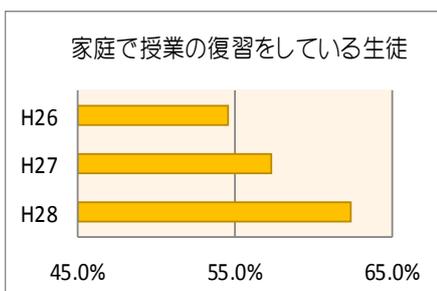
- 家庭で授業の復習に取り組む児童が増加傾向です。
- 3時間以上ゲームをする児童が減少傾向です。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が多いです。
- ◆ 自尊意識(自分にはよいところがある)が低い傾向が見られます。



数字は「している」「どちらかといえば している」の合計です。

生徒質問紙について

- 家庭で授業の復習に取り組む生徒が増加傾向です。
- 2時間以上テレビを見る生徒が減少傾向です。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒が多いです。
- ◆ 自尊意識(自分にはよいところがある)が低い傾向が見られます。



数字は「している」「どちらかといえば している」の合計です。

児童生徒の学習・生活習慣と学力の関係

このような子供ほど、正答率が高いという結果が出ています。



小 学 校	毎日同じくらいの時間に寝て、起きている児童
	ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある児童
	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる児童
	家で、学校の宿題をしている児童
	学校に行くことや、学校で友達に会うのを楽しみにしている児童
	地域や社会の出来事に関心を持っている児童

中 学 校	朝食を毎日とっている生徒
	友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意な生徒
	家で学校の宿題をしている生徒
	家で学校の復習をしている生徒
	地域や社会の出来事に関心をもっている生徒
	学校に行くことが楽しいと思っている生徒

※太字は小中学校に共通するものです。